

Who do you talk with ?

あなたは誰と話しますか？



発行元：群馬こども英語教育研究会

発行日：2015年8月5日

平成27年8月1日（土）に幼児教育関係者20数名を招いて、群馬こども英語教育研究会が開催された。

本研究会は、本学院と幼児教育専門機関の皆様と、“幼児語学教育”に関する多様な事例の交換を通じて教育情報を共有し、一層の教育効果を高めるための研究会であり、今回で第4回目である。



など、これから国際化や多様化が進む日本の教育現場でも導入し得るだろう興味深いトピックスが解説された。



～鎌塚俊徳氏プロフィール～

高崎市出身。アメリカ、カナダに約27年間在住。ロサンゼルスでは国際教育ビジネスに携わる傍ら、15年間に渡り在米日本人家族の教育サポートや日米親善プログラムを企画・運営する教育NPO団体の理事を務めた。2015年春より鎌塚グローバル研究所を設立し群馬県の国際教育支援を行っている。

■ 基調講演

「グローバル化ってなに？」 鎌塚 俊徳 氏

① 外国人に通じた瞬間とは？日本の英語教育の観点から

② アメリカ（多民族国家）での幼児教育

③ アメリカから見える将来の日本の英語教育

長年に渡りアメリカで国際教育事業や教育ボランティア活動に携わって来た鎌塚さんから、

まず言語習得や異文化適応についてのご自身の経験談を語られた。その後、数多くの人種の子供達が学ぶ多様性のある幼稚園や小学校、更には

異国の地で礼儀や歴史などの日本固有文化も学ぶ日本人学校など数多くの写真スライドを披露し、プレゼンテーションではアメリカの教育の目指す

- ・ 『自ら考え行動を起こせる国民作りの場』
- ・ 『間違いを怖がらず答えを導き出す
プロセスを重要視する教育』
- ・ 『好奇心や学習意欲を喚起するナゼナニ教育』



■ 事例発表「幼児向け英会話」（授業参観方式） 英語講師 リリアン・ヨウネス



生徒モデルとなる参加者に対して、ロープレ形式で行われた。英語授業は5つのポイントで構成されている。

1. レッスンが楽しいと子供は学び覚えやすくなる。
2. 歌、ダンス、ゲームを織り交ぜたレッスンは、子供たちに動機付けをする。歌はエネルギーを高めて、子供が語彙を覚えやすくする。子供たちは、身体を動かしながら学ぶことが大切。
3. ゲームは学ぶ目的を設定しなければいけない。
4. 子供たちを教えることには、創造力とエネルギーを必要とする。
5. 先生が楽しんで教えられれば、子供たちも楽しんで学ぶことができる。

リリアンからは英語学習は楽しむことが一番大切であるとのこと。幼児英語教育に関しては、

特に楽しむことを大切に、日々指導の仕方を研究しているとのことであった。

参加者からは、現場で起こっている問題に対する質問がされた。遅れている子の教え方のコツは何か？大人数である時のどうしているか？など、現場での問題について質問がされた。



～Lilian Younes プロフィール～

国籍 ブラジル
学歴 サンジョゼドリオパルド大学卒業後、東海大学教育学部卒業
講師歴 10年
資格 中央外語学院認定講師、幼稚園/小学校教諭資格、Oxford Teacher Training Certificate Program 修了
言語 英語、ポルトガル語

■研究会顧問より

内山先生から英語教育に関連する新聞記事の紹介があった。早期英語教育の各自治体での取り組みの実例や中学3年生で導入される英語全国テストについて内山氏の意見とともに紹介された。早期英語教育は小学校での繋がりがカギになるが、学校外での英語教育が、生徒の英語学習に対する意欲や態度のあり方のポイントになる。多言語を扱う外国人は早期から多言語に触れている例を挙げ、日本人もそうすべきだという意見が話された。

柴山先生からはNHK番組の英語教育の実例と共に「多読」が注目されているとのことであった。NHK番組によると、前橋女子高校が紹介され、1,300冊から、生徒達は自分の好きな本を読む。多読のポイントは3つある。①辞書は引かない②分からないところは飛ばす③つまらなくなったら止める。これは、英語を日本語に置き換えずに理解する力をつけようとする試みだそう。生きている英語の中で、繰り返し出てくる重要な単語や普通の構文に触れる、そういったものに気がついたり自然に覚えたりする効果も期待できるとのこと。

また、日本の英語教育は「小学校のつながり」の英語教育が課題であるとのこと。「読み聞かせ」がカギになってくるだろう。それを補えるのが学外の英語教育機関である。

内山 武 先生（プロフィール）

学歴 東北大学文学部英文学科卒業
職歴
県立榛名高校 英語教師
県立伊勢崎東高校（現県立伊勢崎高校）英語教師
県立前橋高校 英語教師11年
県立中央高校（現中央中等高校）英語教師14年
前橋市国際交流協会にて外国人向け日本語教育
現在、前橋市国際交流協会 副会長

柴山 森二郎 先生（プロフィール）

学歴 1959年 東北大学文学部卒業（文学士）
1986年 シアトルバシフィック大学大学院
教育学研究科修士課程修了
職歴 1964年 群馬県立伊勢崎東高校教諭
1974年 国立群馬工業高等専門学校助教授
1980年 群馬大学医療技術短期大学部教授
1994年 駿河台大学文化情報学部教授
2006年 駿河台大学名誉教授
主な所属学会及び活動
1988年 全国語学教育学会 群馬支部長
1994年 日本英語検定協会実用英語検定
1級面接試験委員
2002年 全国語学教育学会監事
2003年 群馬県教育委員会運営指導委員会委員

■参加者の声

Q1.英語教育の導入目的は何か？

- ・多国籍の園児が徐々に増えているので共通語として英語を取り入れるため。
- ・英語学習の素地作り、コミュニケーション能力の向上、英語の苦手意識をなくす。
- ・世界には英語、日本語以外の言葉も存在することを学ぶため、まずは英語に触れさせたいと考えている。
- ・これから多国籍の人と広く交流していくことに抵抗のない、可能性の広い子どもたちを育てたい。

Q2.英語教育への期待は何か？

- ・世界遺産を抱える地域の子供達達の英語力やコミュニケーション能力が向上することで、将来の地域の“もてなす力”を上げること。
- ・日本語以外の音として楽しく学べること。そこが英語の学びの原点として園児に根づくこと。
- ・話せる（実際に使える）こと。子どもたちが楽しいと感じてくれること（英語＝楽しいものと感じて欲しい）
- ・子どもたちが自然に英語でコミュニケーションできる力をもつこと。（マインド・ヒアリング・スピーチ）トータルのカ、実用のカ。